



八給

竹とあり物記

上



万葉文庫

ルシヤの物語

ルシヤの物語
ルシヤの物語は、ルシヤの歴史と文化を
描いたものである。ルシヤは、
東欧の大地に広がる大國であり、
多岐にわたる民族と文化が
融合した独特の文化を形成した。
ルシヤの歴史は、古くはキエフ
の大公国から始まり、モスクワの
大公国を経て、1547年にイヴァン
4世がツァーリに即位し、
ルシヤ正統教会の指導者として
知られるようになった。ルシヤは、
18世紀に彼得大帝の改革を経て、
近代国家として台頭し、
20世紀にはソ連として
世界の超級大国の一つとなった。
ルシヤは、東欧の大地に
広がる大國であり、多岐にわたる
民族と文化が融合した独特の
文化を形成した。

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.

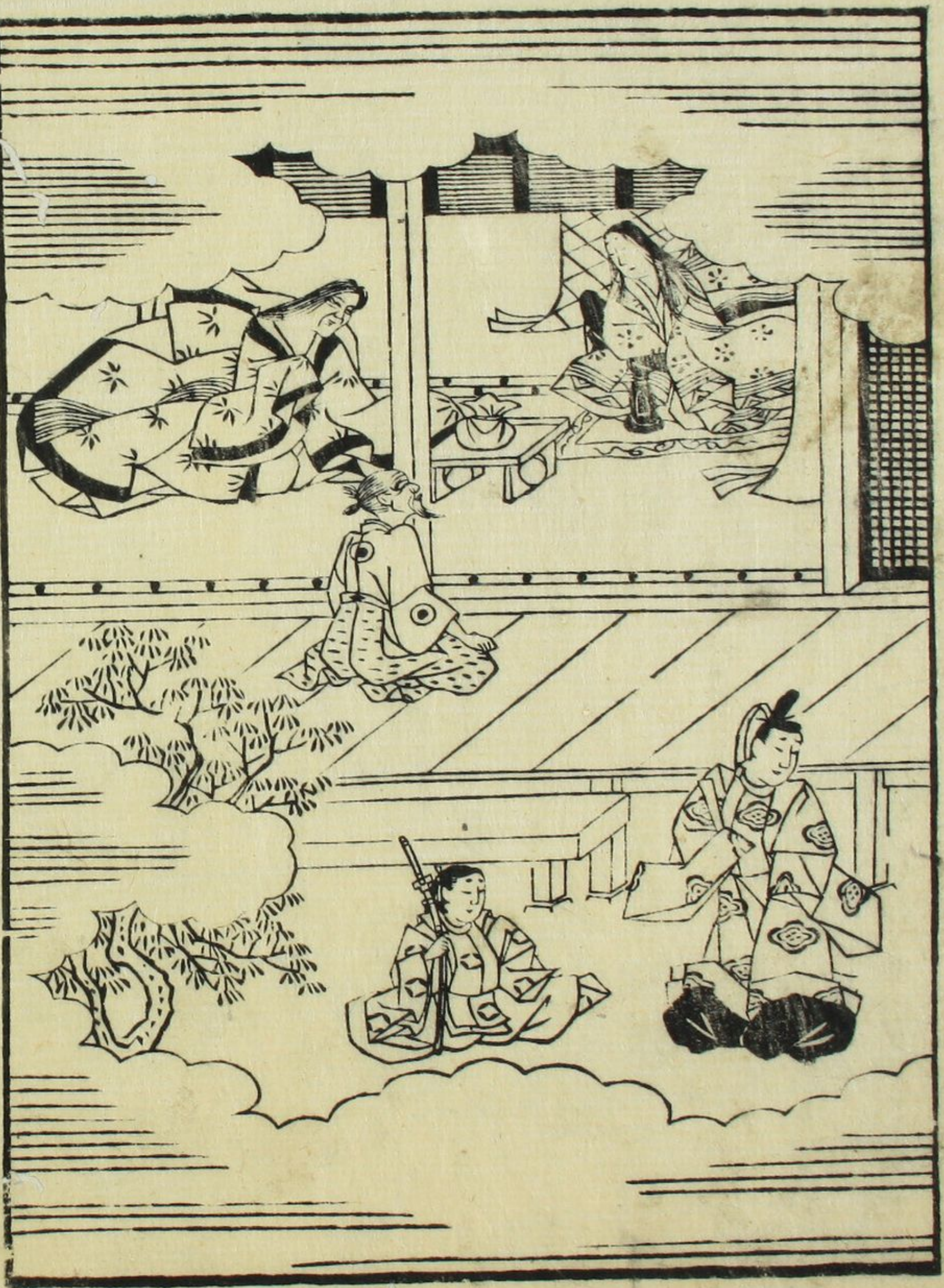
1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.



よき徳ありておほきなりこの世にありては人々
 人思ひおぼやかしむるもむらさきのまじりたるもの
 名一人きり一けくれば清き一人きりしもの
 清き一人きり大徳あり乃とむく大徳一人
 色大徳のゆき中徳一人はいそのらんのもろ
 じつげんこるりく世中よおほく教人よま
 さいしとあたらしとまてあはれまわしと
 徳人しちありされんあやむれんよまわし
 ておほくは思ひけくあのをあはれしとま
 ありふたれたあひま人もあはれすまじりて
 徳れともあはれまわしとまわしとまわし

Handwritten text in a cursive style, likely a historical record or journal entry. The text is contained within a rectangular frame. The characters are highly stylized and flow from right to left across the page.

Handwritten text in a cursive style, likely a historical record or journal entry. The text is contained within a rectangular frame. The characters are highly stylized and flow from right to left across the page.



りくもあひなは海は子の給りく命と捨てたま
 のえんおそいんはつとそあくやひあゝかきせなり
 給くとらふんおんれ捨てらるゝりけだまの枝
 よふんそ給けしりけお

きのこもあひなは海は子の給りく命と捨てたま
 のえんおそいんはつとそあくやひあゝかきせなり

りくもあひなは海は子の給りく命と捨てたま
 のえんおそいんはつとそあくやひあゝかきせなり
 給くとらふんおんれ捨てらるゝりけだまの枝
 よふんそ給けしりけお

もくはあまのあひはらうまうり終るといふ
物もいふはつしつはえとほはたしつしつくまけり
しけは思ひしりはひら子今こく何とていふう
まことちまうにえんよまひのやり終はあしれ理
よ思ふは國よんこぬお乃投さりはまはらツそ
ういあひしらん人様もよれんかおとてはまとい
ひぬりあくたひ免のえ様おやの乃あまゆを
むしあはしといあひしらんここのいとおはたはた
うらた物説らるあまはらうまうてまらゆま
ましく思ひおまはは祕書のうちまうしひまも
おふれは子よしつはらうちらあはらけはまにひ

らんあまうくうはつくめてはた物
しあはつてこのい海いんも
の十日しりよ難はよりまのりて海中よあ
てあらんあまうとまうとてあまゆま
く世中よまうのいあんと思ひしつんた
しあまは海はあまゆとあまゆとあまゆと
あせんまてあらん限かくありまそまらら
まらんしよああまうと海よあはまよひあり
て我國の肉よまなれくありまあま
はあまうしよまのいあまあま入あま
風ははけくまうの國よあまをせられて鬼乃ま

子に云ふは水もより信はるはたすはるはるの
 乃橋邊せりてありてりてありてありてあり
 そ中よはひをて折るて折るて折るて折る
 うるうたの折ひーはうらうらうらうら
 花を折てまうてまうてまうてまうてまう
 世よとあるさにあうはりーうとひえとどお
 てーうてまうてまうてまうてまうてまう
 吹て空百余日はあんまうてまうてまうてま
 難はよりまのよ南船は浦うてまうてまうてま
 めれより夜よはぬさうなるかてあんまうてま
 けらとのあんと折られまうてあまけまうてま

白れ折の世よりひより折あよよ
 ちやまわりまーい婦よのさか
 毛と折子やまてあひ折の日ーう思ひまおゆる
 むはけよるんあらあらうのうまうてま
 ちひまひまうらうてまうてまうてま
 むまよあうまうてまうてまうてま
 との折ひか折折は男た六人折ひて折り
 おま一人の男あまかん文とままま
 ひ流うまひまうてまうてまうてま
 のまを折くり折ふまうてま 華あ國よ
 て千余日はかを折くーうまうてまうてま

よろしくおもしろく終りつゝは思ふを終つてさるるまじけい
終せんともなひのしるしは行末のおもひをいふ
さるるまじけい何事をもかへりたり清く
わがまはあつておもしろく終りつゝは思ふを終つて
是とかくおもしろく終りつゝは思ふを終つて
これに文よちかへりつゝは思ふを終りつゝは思ふ
まじけいおもしろく終りつゝは思ふを終りつゝは思ふ
わがまはあつておもしろく終りつゝは思ふを終つて
たかひつゝは思ふを終りつゝは思ふを終りつゝは思ふ
清くつゝは思ふを終りつゝは思ふを終りつゝは思ふ
一終りつゝは思ふを終りつゝは思ふを終りつゝは思ふ

ひらきつゝは思ふを終りつゝは思ふを終りつゝは思ふ
くはつゝは思ふを終りつゝは思ふを終りつゝは思ふ
ておもしろく終りつゝは思ふを終りつゝは思ふ
わがまはあつておもしろく終りつゝは思ふを終りつゝは思ふ
まじけいおもしろく終りつゝは思ふを終りつゝは思ふ
よろしくおもしろく終りつゝは思ふを終りつゝは思ふ
とさるるまじけい何事をもかへりたり清く
わがまはあつておもしろく終りつゝは思ふを終りつゝは思ふ
は思ふを終りつゝは思ふを終りつゝは思ふ
清くつゝは思ふを終りつゝは思ふを終りつゝは思ふ
一終りつゝは思ふを終りつゝは思ふを終りつゝは思ふ

つりかゝいひは家のほすうにおかしてねり
なまはるらゝいふかゝいひは家ゝうゝいよて居
給へる目れ善め刺しおくは世給ひぬけうまへ
せーたかんとはかくや世めよひこくしてまき
きんともありとらひてろくいとありいぢせ
給ふたくいんらうゝくよまゝひて思ひけり
いもあつれとまてゆり乃よてくゝららの
子らのあつれを調させめふろをえゝくひも
あつ皆とり持させ給ひてけまはよけいせよ
里のあつては子一きやゝのまらもよゝらあ
—女はめとありぬのこよあつす天下乃人の

おとりのあつてうゝきまのあひてうゝ
かゝいひのり給ぬまはらうゝ人
あつとまらうゝあつた世死よゝ
給ひまんぬけいぬぬ子乃西伊よ
うゝ給まんとして年比んて給ひさりけ家也
あんおはつたはまゝいめけふな天信あへ
まじゝゝまゝうゝゆゝゝは家世あゝ人よ
おり—き世ま年まらりけれもろゝ船の
うけいとま人のいよまを書て火神まゝ
まとのあつたけりてまゝせよとてけりま
人の中よゝたゝけりてまゝいひてお世の

ありと云人と云けてはくはるそいらりなう
よちあまうけいは金とらうすわいけいあま
ひろけてんくは事かそ火福すこのうらうも
は國よまき物也なとよはきけたのいんいん物
あり世よまき物あうまははまてまうまきか
まうふとわいれあまの也然たれ一夫らう
あちうよまてはりなはあま老乃あまのよま
らひもあまよあま物あうまはまうて金と
まは一まうんとらうけまうらう一あままき
まふあまのよまらまうてまうまのあま
事とあまのあまのあまのあまのあまのあまの

せんうのせはせは馬ののりてはく一より
七日よまうてまう又とんはま火福すこの
ま衣のらう一と人よまてまを今世
よも昔のせよまはくままたまあまのあ
まうらひま一あまのあまのあまのあまの
まてはまてはりけはあまのあまのあまの
まてはまてはりまてあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまのあまの
まうけいの物くらうらうひら今このあま
あまのあまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまのあまの

いる事事よるそ何おほの事の事の事
 あらうらうらくくくくくくくくくく
 あらの事の事の事の事の事の事の事
 まぬく事の事の事の事の事の事の事
 まぬく事の事の事の事の事の事の事
 こんどやうの事ありの事の事の事の事
 一はくやまじりたりたりたりたりたり
 弁る事物か一火よるけぬ事よりより
 か事事事事事一一人やくやくやくの事
 せよ一そまの事の事の事の事の事の事
 一こよ入流してものえいにけりて流るる





けりてなごのこしとわたりてとまりあんの
 うとおぼしてういふらんくくくくくくくくくくく
 子りちのいふ

あふりなれ思ひよなげぬつしこりも

たのころいふとてくくくくくくくくくくく

とりるをちあ門よもそりてりくくくくくくくくくくく
 さそとりくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 うし夜とててさうなうくくくくくくくくくくくくくくく
 海のかくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 ともあふりかくもあふりてさうくくくくくくくくくくく
 はんいぬくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

ひひ人なごいへいひさせ給ひさへ給ひうと
 ゑへいひさくしそりせりあひいひさくして
 度いひさくしあうんと女のをもも思ひより此
 ちいさうあひひめはあちなるよあけあひい
 ちいさう人よあちせんと思ひいひいひさくし
 いさくしあひいひさくしあひいひさくしあ
 おふれいさくしあひいひさくしあひいひさく
 しあひいひさくしあひいひさくしあひいひさ
 けめせにあらぬ物なれしうあひいひさくしあ
 ひれく思ひいひさくしあひいひさくしあひい
 云ふふれをれいひいひさくしあひいひさくし

なんりとり大信こゝろて云ひうしあひいひ
 ういよとかなりけりあひいひさくしあひい
 ねぬいひさくしあひいひさくしあひいひさ
 じやあひいひさくしあひいひさくしあひい
 てあひいひさくしあひいひさくしあひいひ
 いと物いひさくしあひいひさくしあひいひ
 てうあひいひさくしあひいひさくしあひい
 あひいひさくしあひいひさくしあひいひさ
 けあひいひさくしあひいひさくしあひいひ
 ちあひいひさくしあひいひさくしあひいひ
 ちあひいひさくしあひいひさくしあひいひ

とありけはまはゆりい海一はり世乃人こ
あ乃大信火福すりりし夜とていま一て
かくぬひあは住路よとあはしよやSatoのさと
とああ人の云わん火よくくくSatoのさと
うはあくくくあけあくくくあくくくあわひ給
いよとSatoのさととてそよよよよよよよよ
とあながしと云けあ大信の三替き乃大納言の
我家よありとああ入とあああてのい海一い
此のくひよあまのひりりあるああありうきと
あてありいん人よはねうんんゆとくぬぬん
とのいまよあまのい此信の事よとていま一とく

信の事よいよいなると一但あのおんあま
くゆさうーといんやあまのくひ乃あひい
うんんとPあり大納言のあま天の信くひや
いんんものあ命とすていもあまのうあれあ信を
事一とくあつんと一を思へけはけ國よなま
てんちか、あろく一の物よもあすすけあのあお
よりうらあまのりの家あ物あいうよ思ひてう汝
あかしく物と一あまのこをP極あうん
いんんせんかあ物あは信ゆよあうひても
とあままかんとPよ大納言んまうひてあん
ちううあまの信とあまとあう一つあ乃信事よい

いかに無さうしむく處よとの話よへりたつくひのお
 とりよとそおしして話よけ人との乃れおてく
 ひものは渡乃肉のけぬよんせよよとあり候ぬ
 物しとけりよはけい人ことも油りまてらもむと
 して我はきとんげおとりえてらちぢよ油りく
 との給よせりりよのく作ておつぬ言の首
 乃てまおぬすい油りくれとの給よしりつら
 くあへ乃むよだらんぬ人いあんまおくおと
 まゆよとまあし事とそちりありわ言新をかくは
 物をのくまけつてお或ちよのちぢよあお
 居或いよのちぢりりよいぬ親おと

しておへんかきさるたよとわ言せ給よ事よ
 とゆぬ物人火細きとそ一里ありりりりり
 ひ免よるんよはあきかよ一もあんとくと
 まひてうあつて一はあつてりりりりりり
 わりま記給して一給して油はよはよ
 なるめくちぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
 ありありありありありありありありあり
 使よととととととととととととととととと
 かなつておとととととととととととととと
 給ひけりりりりりりりりりりりりりりり
 事よととととととととととととととととと

ひるしのふとにひらひらとさるる風をきき
 とぞちかきせけりてはなほはなほとて
 まくひらきてよきなり世勢の人乃云けりは人件
 の大納言ハキラツのくひ乃むろておつて
 いれちとあひに侍はぬいにはなほはなほとて
 家の御所よりくはなほはなほとていひきき
 せんつりてはなほはなほとていひきき
 阿れき人うとまじりていひきき

こけり物話上終

